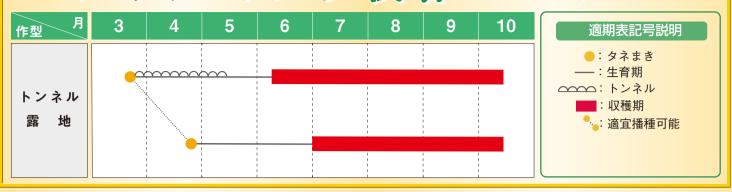
# タキイのオクラ栽培マニュアル



### オクラの発芽

地温が低いと発芽不良(10℃以下になるとほとんど発芽しない)を 引き起こしやすく、初期生育が遅くなり苗立枯病の被害も増えます。 直播の場合は早めにマルチを張り、地温を上昇させておきます。

オクラの発芽

発芽適温 25~30℃		(発芽試験例)	
発芽温度	発芽日数	発芽率	
25~30°C	3~5日	85%以上	
200	10日	85%以上	
15℃	20日	60%程度	

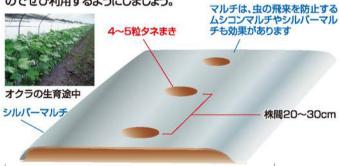
### オクラのポット育苗

オクラは、発芽には比較的高温が必要なので、育苗には温度を確保で きる場所が必要です。育苗用の培土は「タキイたねまき培土」を利用 するとよいでしょう。最低気温が15℃以上になったころ根鉢をくずさ ないように定植します。



### オクラの播種(直播)

播種の目安は、最低地温が15℃以上になったころです。一般地のマル チ栽培では5月上旬ごろ、トンネル栽培では4月上旬ごろになります。 マルチは生育初期の地温を高め、水分と肥料分を保持する働きがある のでぜひ利用するようにしましょう。



うね幅100cm



生育よい2~3株を残し て、残りの株を根元から 切り取る

欠株を防ぐため1穴に4~5粒播種し、本葉 2~3枚の時に生育のよい2~3本を残し て、ほかの株元からハサミで切り取ります。

1ヵ所に2~3本植えがよいでしょう。1本 植えはどんどん生育して大きくなり茎も 太くなりますが、莢も同じように早く硬く なってしまいます。最近は1穴5~6株の 密植栽培も増えています。

### 施肥量

元肥は目安として10㎡当たり成分量で、チッソ、リン酸、カリをそれ ぞれ100~150gを施用します(「ヘルシエ」はチッソ成分量を通常 の2割程度)。オクラは吸肥力が強く、元肥が多いと草勢が強くなり すぎ、イボ果や曲がり果が発生しやすくなるので注意します。

### オクラの花と品種







オクラの色々な品種

オクラは、淡黄色の清楚な花を咲かせます。オクラの花は1日花で、 早朝から開花を始め、夕方にはしぼんでしまいます。



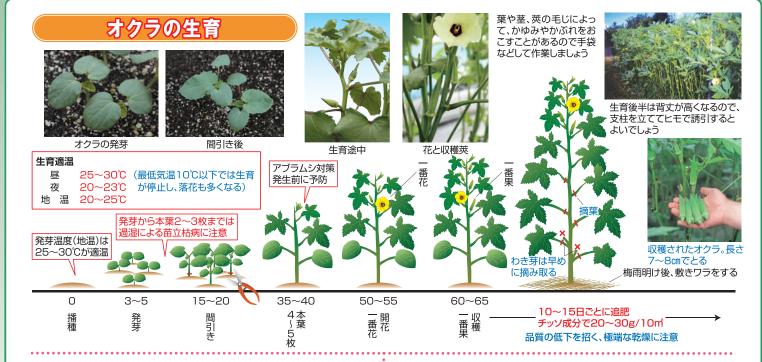


五角種 (グリーンソードなど)



アフリカ原産のため高温性で、10℃以下では生育が停止してしまい 寒さに弱い作物です。直根性で吸肥力が強いため、耕土が深く排水 のよい肥沃な土壌が適しています。過湿に弱く生育不良をおこしやす くなります。

オクラは栄養も豊富で、ビタミンやカルシウムが多く含まれています。 莢を切った時のネバネバは、ペクチンと呼ばれる成分で消化を助けて、 胃があれるのを防ぐ効果があります。



### 追肥と潅水

### 追肥

1番果を収穫するころから、追肥 をします。10㎡当たり、チッソ成 分で20~30g。7~8月の収穫 最盛期は、特に肥料切れに注意し ます。10~15日を目安に、速効 性の肥料を与えて下さい。開花位 置の上に3枚以上の葉が開いて いれば、順調な生育です。定期的 な追肥を行い草勢を保つことで、 より長期の収穫が可能になります。

### [潅水]

オクラは暑さと乾燥に強い作物で すが、水分が不足すると莢の発育 が遅くなり、硬くなって品質が低



開花位置の上に、3枚以上の葉が開いて いれば生育は順調

下します。梅雨明け後の盛夏期は、こまめに潅水を行うようにしましょう。 黒マルチや敷きワラを利用して乾燥を防ぐ方法もあります。

### オクラの収穫

莢の長さは5角オクラが7~8 cm、丸オクラが15cm程度です。 特に5角オクラは、収穫が遅れる と莢が硬化して品質が悪くなる ので若どりを心がけます。開花後 収穫までの日数は6月で7日間、 7月で4日間、8月で3日間を目安 にします。



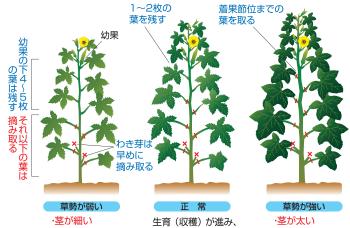


果梗がかたいので 必ずハサミで切り取る。



## 草勢判断と摘葉

摘葉は収穫莢の下1~2枚の葉を残し、それから下を取り除きます。摘 葉をすることで通気性がよくなり、病気の発生予防や収穫時の作業性 の向上のほか、莢が濃緑になり品質が向上するなどの効果があります。



- ・葉が小さい
- ・葉色が薄い ・葉の刻みが深い
- 下葉が込みあうよう
- になると摘葉する

- ・葉が大きい
- ・葉色が濃い
- ・葉の刻みが浅い

# センチュウと生理障

オクラはネコブセンチュウの被害が大き いので連作に注意します。草丈が低く、 生育が弱い場合は、根にコブができてい る可能性があります。葉、根葉類や水稲 などの連作体系を組むとよいでしょう。



根にできたセンチュウによるコブ







### ●オクラの生理障害

	症状	原因と対策	
	イボ果	週繁茂や極端な草勢低下。適正な栽植密度と肥培管理を心がける。また低 温や日照不足が続くと発生が多くなる。品種選定も重要。	
	曲がり果	茨内部の子実の発育不良が原因。草勢低下や、特にカメムシの吸汁による。   追肥やカメムシの防除を行う。	